

# 本ばこ

## —新刊教材・図書紹介—

「日本語の教材や図書に関する新しい情報がほしい」という海外の先生方の声をよく聞きます。このコーナーでは、最近出版された日本語教材や参考書を中心に紹介していきます。誌面の制約上、一回に多くの本を紹介できませんが、「海外の先生にとって使いやすい教材」「授業や研究の役に立つ本」、また、「知っている则便利な図書・資料」などを取り上げます。

※データ凡例 1 著者 2 出版社 3 刊行年月 4 ISBN 5 判型・ページ数 6 定価 7 その他

### 暮らしの中の日本語が楽しく学べる

## 『日本語学習 CD-ROM クリック e コミック コボちゃん』



#### データ

1 企画・制作 林事務所 2 凡人社 (〒102-0093 東京都千代田区平河町1-3-13 菱進平河町ビル1F / TEL. 03-3239-8673 FAX. 03-3238-9125 URL www.bonjinsha.com E-mail info@bonjinsha.com このCD-ROMの詳細についてはwww.click-e-comic.com) 3 2002年7月5日 4 4-89358-517-7 5 全100編 6 18,900円 7 付属冊子「活用アイデア集」

### ▽充実した教師サポート

本教材は、学習者が楽しく自習できる教材ですが、マンガを教室で活用したいと考えている

日本語教師にとっても、嬉しい教材といえるでしょう。

まず、機能面では、検索機能が充実しています。「語彙」「文型」「場面」で検索することができ、それぞれの教育現場に合ったマンガを選ぶことができます。

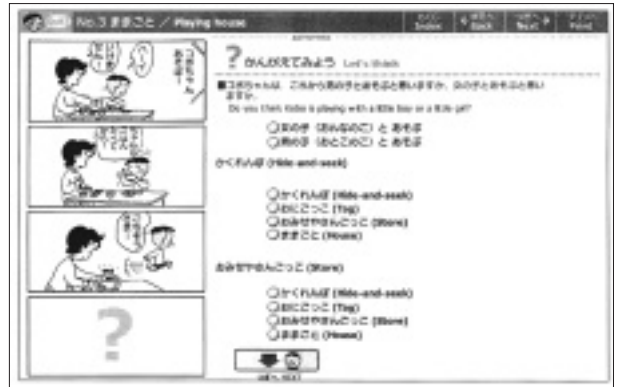
選んだマンガは、「しおり」の機能を使うと、利用したときにすぐ探すことができます。授業で利用する場合、ふきだしを「日本語」「英語」「ローマ字」「表示なし」に切り替えて印刷して配れるのも、嬉しい機能の一つです。

また、付属の冊子『活用アイデア集』には、CD-ROMには収録されていない「並べかえ」「コマぬき」「セリフぬき」などのアイデアや、教室で作品の内容を理解できなかったかどうかを確認する場合の質問例、内容をもとにディスカッションする場合の活用例などが収められています。全100編の作品は、コボちゃんつまり子供の視点から描かれたものと、他の家族つまり大人やペットの視点から描かれたものがありますので、教師が自分の学習者に合った作品を選びたい場合にも、この

付属冊子は心強い味方となるでしょう。



①並べかえ



②コマぬき



③セリフぬき

### ▽楽しく学ぶための工夫がいっぱい

『コボちゃん』は、20年以上にわたって新聞の朝刊に連載されている4コママンガです。その中の100編を、日本語学習のためのCD-ROM教材にしたものが、『クリック e コミック コボちゃん』です。コボちゃん一家のなにげない毎日の生活を通して、現代の日本事情や文化、そして日本人の考え方にふれることができます。

本教材には、CD-ROMの利点を生かした楽しく学ぶための工夫がたくさんあります。まず、ふきだしをクリックするとセリフの色が変わって音声がかかります。ふきだしの表示を「日本語」「英語」「ローマ字」「表示なし」の4種類に切り替えることもできます。また、各作品には、内容理解を助けるための情報が「しつもん」「ストーリー」「せつめい」「ごい」「レッスン」として盛り込まれていて、一つの作品をじっくり学ぶことができます。さらに、全100編のうち33編には、4コマの順番を考る①「並べかえ」、コマを抜いてそのコマで何が起きているかを考る②「コマぬき」、セリフの内容を考る③「セリフぬき」の三つのアクティビティーがあり、学習者の能動的な学習を支援しています。

ジェスチャーで学ぶ日本文化

『ビデオ講座日本語 14 日本語のジェスチャー』

データ

1 企画・構成 氏家研一 2 東京書籍 (〒114-8524 東京都北区船堀2-17-1 TEL. 03-5390-7579 FAX.03-5390-7582 www.tokyo-shoseki.co.jp) 3 2002年7月1日 5 20分 6 9,240円

私たちのまわりの日常会話を観察してみると、多くの人が、言葉だけでなくさまざまなジェスチャーを使いながら話していることがわかります。ジェスチャーは文化によって異なる場合が少なくありませんから、初めて異文化のジェスチャーを見た時、その意味がわからなかったという経験を持つ人も多いでしょう。

ビデオ講座日本語シリーズはこれまで、自然な会話の中で、さまざまな文法を提示してきました。今回は日本人が日常会話の中で使うジェスチャーを、職場の自然な会話の中で紹介して

います。たとえば、さかづきを傾けて酒を飲むことを表すジェスチャー、指で丸を作ってお金を表すジェスチャー、頭をかいて申し訳ないという気持ちを表すジェスチャーなど、全部で19のジェスチャーが紹介されています。

ビデオでは、まず日本人が自然な会話の中でジェスチャーを使い、アメリカ人のワースさんがその意味を質問するという流れになっています。ジェスチャーだけをみてその意味をクラスで考えてみたり、ジェスチャーの意味を理解したあと、同じことを表すために自分の文化ではどんなジェスチャーを使っているか話し合ったりする利用方法も考えられるでしょう。もちろん、ことばと同じように、ジェスチャーも場面や性差、相手との関係などによって、いつでも使えるわけではありませんので、ビデオを見る時はその点に留意する必要があります。

なにげないジェスチャーに注意を払うことで、

非言語コミュニケーションが果たす役割に注目したり、異文化そして自文化への視点を養ったりするための好材料として活用できる教材です。



さかづきを傾けるジェスチャーは、酒を飲むことを表します。

「初級から中級への橋渡しシリーズ」第二弾

『文法が弱いあなたへ』

データ

1 足立章子、金田智子、鈴木有香、武田聡子 2 凡人社 (〒102-0093 東京都千代田区平河町1-3-13 菱進平河町ビル1F / TEL.03-3263-3959 FAX03-3238-9125 URL www.bonjinsha.com/index-j.html E-mail info@bonjinsha.com) 3 2002年5月30日 4 4-89358-513-4 5 B5判90ページ 6 1,260円 7 別冊解答付き

本書は「初級が終わって、これから中級へ進もうとする人たちのために」作られた問題集で、本誌44号本ばこで紹介した『漢字語彙が弱いあなたへ』に続く「初級から中級への橋渡しシリーズ」第二弾です。書名は『文法が弱い…』となっていますが、決して弱い人のためだけの問題集ではありません。中級に進む前に初級文型をもう一度整理するための問題集として、文法が強い人にもお勧めできる一冊です。

扱われている項目は、助詞、自動詞と他動詞、アスペクト補助動詞、授受動詞、形式名詞、モダリティ、条件、使役、受身、敬語など全部で39あり、どこからでも始めることができます。各課の構成は大きく2つに分けられます。まず、基本的な文法知識の確認のために、動詞の活

用や意味用法を問う問題、類似表現との正しい使い分けを問う問題、絵を見て短い文を作ったり空欄に正しい語を入れたりする問題などがあります。そして、これらが理解できていたら、総仕上げとしてまとまった長さの読解文に挑戦です。初級文法の復習用問題集は今までもいろいろありましたが、各課にまとめの読解文があるのが本書の特徴であり、この部分が「初級から中級への橋渡し」の役割を果たしていると言えます。読解文までできれば理想的ですが、

時間がない人は、ここでは省略して前半の文法問題だけをやってよいでしょう。各ページには楽しい絵もあつたり、微妙な意味の違いなどをわかりやすく説明しています。

前述したように、本書は

もともとは初級文法の復習用として作られたものですが、初級の学習と同時に進めることもできます。先生が宿題用として使ってもいいですし、解答が別冊付録としてついていますので、意欲のある学習者が自習用として使うこともできます。





音を聞きながら、日本語の音声について学べる

『日本語教育をめざす人のための基礎から学ぶ音声学』

データ

1鹿島央 2スリーエーネットワーク (〒101-0064 東京都千代田区猿楽町2-6-3 (松栄ビル) / TEL.03-3292-5751 FAX.03-3292-6195 URL www.3anet.co.jp 32002年5月31日 44-88319-231-8 5A5判194ページ 61,995円 7CD付き

みなさんには、学習者の発音を聞いて、どこか日本語母語話者の発音と違っているのに、何が違うか、どこを変えたらよいか、わからないという経験はありませんか。この本は、そんなときにヒントを与えてくれる本です。

各章で取り上げられているテーマは、第1章：単音（文節音）、第2章：音節、第3章：韻律レベル、第4章：音声教育です。

この本の大きな特色は、日本語の音声を実際の音を聞きながら学べるところです。

付属のCDを聞きながら本文を読み進み、実

際に口を動かしてさまざまな音を出してみると、それぞれの音が出て来るしくみが確認できます。CDには学習者の母語や日本語の音声も入っていますが、その音がどうやって作られているのかも示されているので、学習者の音声の問題点をつかむこともできます。学習者の母語は、10言語以上にわたります。

この本のもう一つの特色は、日本語のリズムを構成する単位を「リズムユニット」と名づけ、語の長さを「拍感覚」ではなく、「リズムユニット」の配置として捉える新しい方法を提言しているところです。「リズムユニット」には、1拍分の単位である「リズムユニット1」と、2拍分の「リズムユニット2」があり、すべての語はこのユニットの組み合わせとして規定できると考えています。たとえば、「たべ・もの

(食べ物)」は「リズムユニット2+2」、「じ・かん(時間)」は「リズムユニット1+2」です。

この本を読むことにより、読者は日本語の音声の知識を得るだけでなく、自分自身の日本語の発音や音声の教育について振り返りきっかけも得られるでしょう。



P. 54



P. 55

コンピュータ・ITの世界へ無理なく進める教材

『日本語教師のためのITリテラシー入門』

データ

1畑佐一味 2くろしお出版 (〒112-0002 東京都文京区小石川3-16-5 / TEL.03-5684-3389 FAX.03-5684-4762 URL member.nifty.ne.jp/kurosi/ 32002年6月17日 44-87424-246-4 5B5判86ページ 61,890円 7CD付き

本書は「コンピュータはちょっと」という日本語教師のために日本語を教える上での、

- ①具体的なコンピュータの利用方法
- ②IT (Information Technology) 活用の可能性に重点をおいています。

本書の目的としてあげられているのは次の二つです。

- 1) 教師一人一人のITリテラシーを高め、コンピュータに対する苦手意識を減らす
- 2) 仕事をする上で最低限必要な知識と技術をしごと身につける

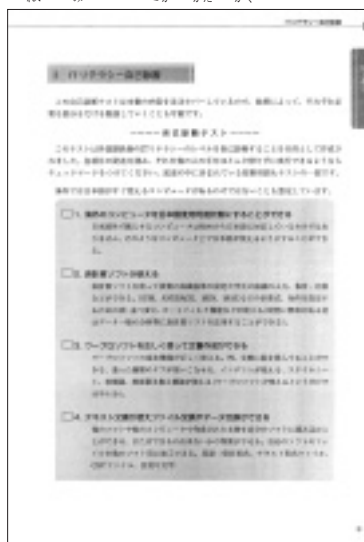
本書は、まず第1章でITリテラシーにつき、何ができて、何ができないのがチェックできる14項目の自己診断の質問があります。そして、海外でのコンピュータの日本語環境設定につい

て基本的なことを紹介しています。第2章から8章では具体的にワープロソフト、表計算ソフト、グラフィックソフトなどの使い方を実践的に学習していくことができます。例えば、比較的使い慣れているワープロソフトでも、基本的な機能の中にまだ利用価値の高いものがあるとして、インデント、タブ、スタイルシートの使い方を取り上げています。さらに表計算ソフトでは具体的な成績管理の例を見ながら使い方を学習できます。その他、電子メール、ワールドワイドウェブ (www) についての章もあり、自分に必要な章を選んで学習することもできます。各章の終わりには練習問題もついていて、各章の確認ができるよう工夫されています。

また、付属のCD-ROMを活用し

て、理解しにくい例題や練習問題の解答例を参照しながら自分で学習を進めることもできると思います。

わずか86ページですが、本書を読み終えるころにはコンピュータ・ITに少し自信がもてるようになるでしょう。



P.3



P.25

P.17～19は以下の日本語国際センター専任講師が図書を選び、分担して紹介文を執筆しました。

島田徳子、大隅敦子、押尾和美、木山登茂子、雄谷進 (執筆順) しまだのりこ おおすみあつこ おしおかずみ きやまともこ おおやすむ しつじゆん